

ずるずる構築体 (展覧会) 安村卓士

Zuruzuru Kochikutai Exhibition | Takuji Yasumura

2024年3月8日(金)～3月31日(日) 10:00-18:50 会期中無休 観覧無料

秋田公立美術大学サテライトセンター (フォンテAKITA6階)

主催 / 秋田公立美術大学 企画・制作 / NPO法人アーツセンターあきた

お問い合わせ / 秋田公立美術大学サテライトセンター (NPO法人アーツセンターあきた)

TEL 018-893-6128 FAX 018-893-6136 E-mail info@artscenter-akita.jp Web https://www.artscenter-akita.jp



arts center akita

Takuji Yasumura

https://yasumura-takuji.jimdosite.com/



アーツセンターあきた

「ずるずる構築体(展覧会)安村卓士」おもちゃ作品とは玩具であると同時に芸術作品である
https://www.artscenter-akita.jp/archives/48610



壁面:
「制作タロット」2022～
書きとめているメモを切り貼りして、1枚のカードにする。

「制作タロット」2022～

書きとめているメモを切り貼りして、1枚のカードにする。

「デモクラシー・リバーシ」2018
民主主義がテーマのボードゲーム作品。
(白)対(七色)で対決する。

「△○□ゲーム」2022
赤・青・黄に塗られた△○□を、ルールにしたがって揃えていく競争ゲーム。

「ペットを飼えなかった人のための彫刻5」2022

「さかなのほね」2022～2024
ねずみがさかなのほねの上の食べのこしを集めながら、あたまを目指す。

「こまの庭」2022～
手近にあるものを組み合わせて作られるこまの庭。それぞれが回り方に個性を持つ。

「ペットを飼えなかった人のための彫刻4」2022
木材の切れ端やキャスターを組み合わせて作られた彫刻。散歩をさせる人は少し不自然な動きをしたり、ダンスを踊ったりすることになる。

「ほね」2022～
手のひらに乗せて動かすと、カラカラと乾いた音がする。

「柱状のずるずる構築体」2023

「3色迷路」2023
赤・青・黄の球を転がして3色迷路。

「くも」2023
金属部品で作られたくも。脚はラジオのアンテナでできていて、長さが4段階変化する。

「棒」2024
筒状のものがつなげた棒。

「棒」2024
「器の器の」2023
ガチャガチャのカプセルが五層重なっている。手に持ちゆらゆら動かすと安心感が得られる。

「ひと」2023
金属部品で作られたひと。手は顔にくっつく。

「距離のゲーム」2023
社会性を帯びた人形たち。

「家の箱庭」2021
ある家をかたどった箱庭。家に集った人たちでおもちゃを並べた。

「箱庭パズル」2021
建物や道、動物などの立体を組み合わると、街がつくられていく。

「柱状のずるずる構築体」2023

「迷路シリーズ」
(とんぼ、赤道直下、目薬、もぐら、川下り) 2021
家を改修する時に出た廃材を組み合わせて作られた立体迷路。内部の玉を転がすことができる。

壁上:
「複眼」2023
透明なプラスチックで構成された立体物。よく見ると、映り込んだ周りの風景を意図せず見ることになる。

「小さな家」2021～
端材を組み合わせて作られる、小さなフィギュアのための家。

「ずるずる構築体(キーボード)」2023
カラフルなパーツを押していく。それぞれ押し心地がちがう。

「3色ヘビ」2022
持ち手をもって動かすと、赤・青・黄に塗られたヘビが軽やかに踊り出す。動かす人もつられて踊り出す。

「ちょう」2024
金属部品で作られたちょう。羽が動く。

「地底人」2024
かぶると地底人になれる。

「発明家」2024
かぶると発明家になれる。

「柱状のずるずる構築体」2023
カラフルなパーツが柱状につながっている。回転できる。

「複眼」2023
透明なプラスチックで構成された立体物。よく見ると、映り込んだ周りの風景を意図せず見ることになる。

ドローイング

あそびの図

受付カウンター

全部の作品にさわれます